

2025 年 8 月・2026 年 2 月 入学試験
杏林大学大学院保健学研究科
学生募集要項

- 保健学専攻博士前期課程
- 看護学専攻博士前期課程
- 保健学専攻博士後期課程
- 看護学専攻博士後期課程



杏林大学大学院保健学研究科

目 次

保健学研究科の理念・目的とアドミッションポリシー.....	1
保健学専攻・看護学専攻博士前期課程 募集要項.....	3
保健学専攻・看護学専攻博士後期課程 募集要項.....	8
保健学専攻指導教員の研究概要.....	13
看護学専攻指導教員の研究概要.....	18

保健学研究科の理念・目的とアドミッションポリシー

【理念・目的】

保健学研究科は、“真・善・美の探究”という本学建学の精神に則り、保健、医療、看護及び福祉の専門分野において、広い視野と豊かな学識を有し、専門性の高い業務を遂行する人材、並びに研究能力を有する人材を養成することを目的とします。

1) 保健学専攻

博士前期課程では、学部教育や職業経験により培った知識・技術をさらに高め、専門職としての卓越した判断力と実践力、および指導力とマネジメント能力を持った高度専門職業人を養成します。

博士後期課程では、前期課程で培われた専門能力と識見、科学的な思考力をさらに深化させて、学問的基盤を確立するとともに、学際的・国際的な視野に立って諸課題を探究できる研究・教育者を養成します。

2) 看護学専攻

博士前期課程では、学部教育や職業経験により培った知識・技術をさらに深め、卓越した看護実践力、および指導力とマネジメント能力を持った看護師・保健師・助産師を養成します。また、「がん看護」「クリティカルケア看護」「精神看護」に関する専門看護師、感染管理や医療安全管理の指導者も養成します。

博士後期課程では、現代社会における看護・保健領域の複雑かつ多様な看護ニーズに応えるために、博士前期課程で培われた看護学の専門能力と識見、看護感性をさらに深化させて、学問的基盤を確立するとともに、学際的・国際的な視野に立って諸課題を探究できる研究・教育者を養成します。

【アドミッションポリシー】

1) 保健学研究科博士前期課程

本研究科の理念・目的を理解し、その達成に真摯に取り組む意欲のある人材を求めている。具体的には、次のような資質を持つ学生を求めている。

(1) 求める学生像、資質

- (1-1) 保健・医療・看護・福祉領域の専門分野の知識や技術をより高めたいという意欲を持っている人
- (1-2) 保健・医療・看護・福祉とその関連領域の問題や課題に関心を持ち、研究的に解明・解決したいという熱意を持っている人
- (1-3) 保健・医療・看護・福祉領域の職業人としての指導力をつけるために、広い視野とマネジメント力を培いたいという意欲を持っている人
- (1-4) 保健・医療・看護・福祉領域の教育・研究者を志向し、その基盤となる素養や研究力を培いたいという人
- (1-5) 大学院での学修や研究成果を社会に還元し、保健・医療・看護・福祉領域の改善や進歩に貢献したいという熱意を持っている人

(2) 求める学習成果

「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）及び「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力を備えた人を求める。

- (2-1) 保健、医療、看護、福祉とその関連領域の学士あるいは、それと同等の基礎学力および英語力を有する。（知識・技能）
- (2-2) 保健、医療、看護、福祉領域の専門的知識・技術を有する。（知識・技能）
- (2-3) 自らの研究的関心について背景や理由等を論理的に要約し、説明や質疑応答ができる。（能力）
- (2-4) 主体性と協調性、積極性を持って教職員や他学生と交わり、相互理解を深めることができる。（態度）
- (2-5) 虚偽や曖昧さを許さず、真摯に忍耐強く研究に取り組むことができる。（態度）

2) 保健学研究科博士後期課程

本研究科の理念・目的を理解し、その達成に真摯に取り組む意欲のある人材を求めている。具体的には、次のような資質を持つ学生を求めている。

(1) 求める学生像、資質

- (1-1) 保健、医療、看護、福祉領域の高度専門職業人に相応しい倫理観を有し、最新専門知識や高度技術を修得するとともに、学際的な識見を深めて、その実践力や指導力をさらにレベルアップしたいという意欲を持っている人
- (1-2) 保健・医療・看護・福祉行政における問題・課題発見能力と解決能力を高め、その成果を保健・医療・福祉行政に反映させたいという熱意を持っている行政職の人
- (1-3) 保健、医療、看護、福祉領域の教育・研究者としての学問的基盤を確立し、グローバルに活躍したいという意欲を持っている人

(2) 求める学習成果

「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）及び「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力を備えた人を求める。

- (2-1) 保健、医療、看護、福祉とその関連領域の修士課程修了者としての、高度かつ専門的な知識や技術を有している。（専門的知識・専門的技能）
- (2-2) 専攻する保健、医療、看護、福祉の専門分野の英文学術論文を読みこなせる英語力を有する。（専門的知識・専門的技能・国際性）
- (2-3) 専攻する保健、医療、看護、福祉の専門分野の課題解決のための研究遂行能力、論文執筆力や論文発表におけるプレゼンテーション力を有する。（研究遂行能力）
- (2-4) 主体性と協調性、積極性を持って教職員や他学生と交わり、相互理解を深めることができる。（コミュニケーション能力）
- (2-5) 研究倫理を熟知し、重要性を十分認識している。（倫理観）
- (2-6) 安易に妥協することなく、忍耐強く研究に取り組むことができる。（研究遂行能力）

保健学専攻・看護学専攻 博士前期課程（修士）

I 募集人員

保健学専攻： 7名（社会人特別選抜を含む）
看護学専攻： 2名（社会人特別選抜を含む）

II 選抜方法

1. 一般選抜
2. 社会人特別選抜

III 募集時期および入学時期

募集時期	2025年8月入試		2026年2月入試
募集区分	A	B	C
入学時期	2025年9月	2026年4月	2026年4月

※専門看護師教育課程を希望する者は、募集区分はBもしくはCのみ。

IV 出願資格

【一般選抜による出願】

1. 大学を卒業した者、あるいは本大学院入学までに卒業見込みの者
2. 専修学校の専門課程修業年限が4年以上であることを修了した者（この項で応募する方は、文部科学大臣の定める基準を満たしているかを確認しますのでご連絡ください）
3. 文部科学大臣の指定した者
4. 外国において学校教育における16年の課程を修了した者、あるいは本大学院入学までに修了見込みの者（外国において12年以上の教育を受けた者で、日本の大学を卒業した者あるいは本大学院入学までに卒業見込みの者を含む。）
5. 大学に3年以上在学し、または外国において学校教育における15年の課程を修了し、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと本大学院が認めた者
6. 大学評価・学位授与機構より学士の学位を取得した者あるいは本大学院入学までに取得見込みの者
7. 本大学院が、上記1と同等以上の学力を有すると認めた者で本大学院入学までに22歳に達する者

【社会人特別選抜による出願】

1. 次の（1）（2）のいずれかに該当する者で、かつ一般選抜の出願資格1～7のいずれかを満たす者。ただし、出願資格の確認を行います。
（1）学校、研究所、官公庁、会社、非営利団体等に1年以上勤務し、かつ入学後も就業を継続する者
（2）その他本研究科が認めた者

V 出願手続

1. 出願書類の請求および提出先

入学志願者は、入学願書等一式を本学ホームページよりダウンロードし、出願書類を取り揃え、教務係に提出してください。窓口で直接持参する場合は、必ず封筒に入れること。封筒には、以下の宛先を記入し「出願書類 在中」と朱書きすること。不明な点は、教務係にお問い合わせください。

杏林大学大学院保健学研究科教務係（井の頭キャンパス）

〒181-8612 東京都三鷹市下連雀5-4-1 電話：0422-47-8000（代表）

※取扱時間：平日9:00～17:15、土曜日9:00～13:00（日曜日・祝日は取り扱いません）

2. 出願書類

【一般選抜による出願】

- | | |
|-------------------|---|
| (1) 入学願書・受験票 | 本大学院所定のもの |
| (2) 成績証明書 | 出身大学長等の発行するもの |
| (3) 卒業（見込）証明書 | 出身大学長等の発行するもの |
| (4) 研究計画書 | 本大学院所定のもの |
| (5) 旅券・査証の写し及び住民票 | 外国籍の方のみ提出してください。 |
| (6) 健康診断書 | 本大学院所定のもの（本学出身者は不要） |
| (7) 顔写真 | 3枚（縦3cm×横2.4cm、入学願書・受験票にそれぞれ貼り付ける） |
| (8) 返信用封筒 | 受験票送付用の定形封筒（長3サイズ 願書持参の場合は不要）
（封筒は郵便番号・住所・氏名を明記し、速達料金を含む郵便切手（各自確認）を貼付すること） |

- (9) 入学検定料 35,000円

注：本大学院所定の振込用紙を使用してください。願書をホームページより入手した方は、下記の振込口座に入学検定料を振り込んでください。振込証明書（またはATMによる振込票）を入学願書の貼り付け欄に貼付してください。

銀行名 三菱UFJ銀行西荻窪支店 口座名 普通預金 №.392198 杏林大学 保健学部
--

※ATMにて振込を行う場合は、左記の記載とは異なる口座名が表示されることがありますが、そのままお振込いただいても問題ありません。
 ガク) キョウリンガクエン キョウリン〜 等

【社会人特別選抜による出願】

○出願資格を確認するため、以下の書類を出願期間に先立って資格確認のための書類提出期間に提出してください。

- | | |
|-------------------|---|
| (1) 出願資格確認願 | 本大学院所定のもの |
| (2) 履歴書 | 本大学院所定のもの |
| (3) 研究計画書 | 本大学院所定のもの |
| (4) 成績証明書 | 出身大学長等の発行するもの（最終学歴の学校長の発行するもの） |
| (5) 卒業証明書 | 出身大学長等の発行するもの（最終学歴の学校長の発行するもの） |
| (6) 在職・就業証明書 | 勤務先の発行するもの
（書類提出時点で、在職していることが分かる証明書。職員証のコピー等は不可） |
| (7) 旅券・査証の写し及び住民票 | 外国籍の方のみ提出してください。 |
| (8) 返信用封筒 | 定形封筒（長3サイズ 出願資格の確認結果通知用）
（封筒は郵便番号・住所・氏名を明記し、速達分の切手を貼付すること） |

○出願資格の確認結果通知により、出願資格を有すると認定された者は、以下の書類を出願期間内に提出してください。

- | | |
|--------------|--|
| (9) 入学願書・受験票 | 本大学院所定のもの |
| (10) 健康診断書 | 本大学院所定のものもしくは勤務先で発行しているものでも可。
ただし、勤務先で発行しているものを提出する場合、出願前6か月以内に受診したもので、胸部X線の項目が入っている場合のみ可とする。 |
| (11) 顔写真 | 3枚（縦3cm×横2.4cm、入学願書・受験票にそれぞれ貼り付ける） |
| (12) 返信用封筒 | 受験票送付用の定形封筒（長3サイズ 願書持参の場合は不要）
（封筒は郵便番号・住所・氏名を明記し、速達料金を含む郵便切手（各自確認）を貼付すること） |
| (13) 入学検定料 | 35,000円 |

注：本大学院所定の振込用紙を使用してください。願書をホームページより入手した方は、下記の振込口座に入学検定料を振り込んでください。振込証明書（またはATMによる振込票）を入学願書の貼り付け欄に貼付してください。

銀行名 三菱UFJ銀行西荻窪支店 口座名 普通預金 №.392198 杏林大学 保健学部
--

※ATMにて振込を行う場合は、左記の記載とは異なる口座名が表示されることがありますが、そのままお振込いただいても問題ありません。
 ガク) キョウリンガクエン キョウリン〜 等

3. 出願上の注意

- (1) 募集区分A、B、Cを選択してください。専門看護師教育課程を希望する者は、募集区分はBもしくはCのみです。
- (2) 指導教員の研究概要を参考に研究指導を希望する専門分野、指導教授をご確認ください。
- (3) 研究内容等について予め指導を希望する教授と十分相談してから願書を提出してください。
入学後の指導教授の変更は、原則としてできません。一部の准教授は同一専門分野の教授とともに、または教授に依頼されて研究指導ができますが、単独での研究教育指導はできません。
- (4) 出願書類を郵送する場合は必ずレターパックライトまたは書留とし、締切日必着とします。
- (5) 出願書類に不備のあるものは、受け付けません。
- (6) 出願者には受験票を送付します。未着の場合、試験当日に申し出てください。
- (7) 受理された出願書類の返却、また、既納入学検定料は返還しません。

VI 出願・試験日・合格発表

1. 出願期間および試験日程

	2025年8月入試 (A. 2025年9月入学・B. 2026年4月入学)	2026年2月入試 (C. 2026年4月入学)
出願資格確認のための書類提出期間 ※	2025年6月20日(金)～ 6月27日(金) 必着	2025年12月 9日(火)～ 12月16日(火) 必着
出願期間(一般、社会人とも)	2025年7月11日(金)～ 7月18日(金) 必着	2026年 1月 5日(月)～ 1月13日(火) 必着
試験日	2025年 8月 9日(土)	2026年 2月 7日(土)

※P.3 IV出願資格【一般選抜による出願】の1.に該当しない場合も出願資格確認のための書類提出期間に必要な書類を提出してください。

※長期履修制度の利用についても、出願資格確認期間に書類の提出が必要になります。

2. 試験科目(2025年8月、2026年2月入試共通)

時 間	科 目
10:00～11:30	英 語
13:00～14:00	専 門 試 験
15:00～	面 接

3. 試験会場

杏林大学井の頭キャンパス

4. 選抜方法および諸注意

- (1) 選抜は、筆記試験、面接および健康診断書の結果によります。
- (2) 英語は辞書持込み可です。ただし、電子辞書および語学以外の辞書の持込みはできません。
- (3) 専門試験は、志望専門分野から出題されます。
- (4) 受験の際は、必ず受験票を携帯してください。

5. 合格発表

(1) 日時

2025年8月入試 (A. 2025年9月入学・B. 2026年4月入学)	2026年2月入試 (C. 2026年4月入学)
2025年8月27日(水) 15時	2026年2月25日(水) 15時

- (2) 方法 杏林大学井の頭キャンパスC棟1階教務課および三鷹キャンパス看護・医学教育研究棟1階の掲示板にて合格者の受験番号を公示します。

(3) 注意

- ①合格発表についての本学への電話等による問い合わせには一切応じません。
- ②合格者には、合格通知書および入学手続書類を郵送します。

VII. 入学手続提出書類

1. 入学手続

(1) 手続期間

2025年8月入試 (A. 2025年9月入学・B. 2026年4月入学)	2026年2月入試 (C. 2026年4月入学)
2025年 8月28日(木)～ 9月 4日(木) 17時15分	2026年 2月26日(木)～ 3月5日(木) 17時15分

(2) 取扱時間 平日 9:00～17:15

土曜日 9:00～13:00（日曜日・祝日は取り扱いません）

(3) 合格者は学生納付金とその他の納付金を納入（本学所定の振込用紙により銀行振込）し、所定の期日までに入学手続書類を提出して入学手続を完了してください。指定期間内に入学手続を完了しないときは、入学を許可しません。

2. 提出書類

(1) 誓約書 本大学院所定のもの。

(2) 学納金等振込証明書（所定用紙に貼付）

(3) 顔写真 2枚（縦3cm×横2.4cm）正面・上半身・脱帽、背景無地。

（裏面に必ず氏名、受験番号を記入し、専用封筒に同封）

(4) 卒業証明書

（卒業見込みで受験した方のみ入学後に卒業証明書を提出してください。提出については別途ご案内します）

(5) 返信用レターパックライト

（後日入学許可書を送付する際に使用いたします）

3. 学納金及び納入方法

	学 納 金（年額）		納 入 方 法
	保健学専攻	看護学専攻	
入 学 金	250,000円	250,000円	入学時のみ納入
授 業 料	500,000円	800,000円	各学期ごとに納入。 （保健学：250,000円、 看護学：400,000円）
施 設 拡 充 設 備 費	200,000円	200,000円	各学期ごとに納入（100,000円） （ただし、最初の2学期のみ）
学生教育研究災害傷害保険料	1,790円	1,790円	入学時のみ納入（2年分）
合 計	951,790円	1,251,790円	2年次は学期ごとに授業料のみ 納入

※1. 募集区分A、Cの合格者は入学金およびその他の納付金（授業料、施設拡充設備費他）は、入学手続期間に納入してください。

※2. 募集区分Bの合格者は、入学金のみを2025年 8月入試の入学手続期間に納入してください。

その他の納付金（授業料、施設拡充設備費他）は、2026年 2月入試の入学手続期間に納入してください。

※3. 本学の学部を、卒業もしくは卒業見込みで、大学院に進学する場合は、入学金を免除します。

4. 注意事項

入学手続完了者で自己の都合により入学辞退を申し出、かつ既納付金の返還手続をした方に限り、次により取り扱います。

(1) 募集区分Aの合格者については、2025年 9月12日（金）15時00分までに申し出た場合は既納付金のうち入学金を除いたものを返還しますが、上記指定日時以降の場合は、既納付金一切を返還しません。

(2) 募集区分BまたはCの合格者については、2026年 3月27日（金）15時00分までに申し出た場合は既納付金のうち入学金を除いたものを返還しますが、上記指定日時以降の場合は、既納付金一切を返還しません。

VIII. 修了要件及び取得学位

修了要件は、博士前期課程に2年以上在学し、30単位以上を修得し、学位論文または特定の課題についての研究報告^(註1)を在学中に提出してその審査および最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、特に優れた研究業績を上げた者については、博士前期課程に1年以上在学すれば足りるものとします。

授与される学位は、保健学においては修士（保健学）、看護学においては修士（看護学）です。

※注 特定の課題についての研究報告は、看護学専攻の専門看護師を目指す方、または保健学専攻の専修免許状取得を目指す方のみに適用されます。

IX. その他の参考事項

1. 教職課程について

学士課程で一種免許に必要な単位を修得した者が、博士前期課程「保健学分野」に在籍し、教職課程の所定の単位を修得し修士の学位を取得すると、養護教諭、中学校教諭（保健）および高等学校教諭（保健）の専修免許状が与えられます。ただし、一種免許状の免許教科は、上記の専修免許状の免許科目と同一でなければなりません。

2. 奨学金制度について

日本学生支援機構奨学金

学業成績、本人の経済的事情を審査の上、推薦します。

3. ティーチング・アシスタント制度

優秀な大学院生に対して、学生の実験、実習、演習等の教育的補助業務を行わせ、これに対して手当を支給するとともに、教育者としてのトレーニングの機会を提供します。ただし、社会人特別選抜で入学した場合には、この制度は適用されません。

4. 井の頭キャンパス内の禁煙について

杏林大学では、東京都の「受動喫煙防止条例」に基づき、学生、教職員及び近隣の方々への健康被害を防止するため、井の頭キャンパスでは構内全域で禁煙となっておりますので、構内での喫煙はできません。また、三鷹市は受動喫煙禁止区域に指定されています。キャンパス周辺の路上・公園等での喫煙は絶対にしないでください。本学は以下の事項について、積極的に取り組んでいきますので、入学生の皆様のご理解とご協力をお願いします。

1. 禁煙活動キャンペーンの実施
2. 大学病院外来での禁煙サポート

5. 長期履修制度について

標準的な修学年次で修了が困難な者に限り、所定の在学年度の期間内で修行年限を延長し教育課程を履修することを認める制度です。制度の概要はホームページ参照のこと。

本制度の希望者には、必要資料を送付いたしますので、出願資格確認のための書類提出期間前に必ず教務課に問い合わせてください。

事前に希望する指導教員に相談の上、出願資格確認のための書類提出期間中に長期履修制度の申請書を提出してください。なお、申出後は、学内審議を経て許可するか否かを決定いたします。

6. 受験上・修学上の配慮申請

本学では、疾病や負傷、障害等のある方が、受験上・修学上不利になることがないように、合理的配慮を提供しています。配慮を必要とする場合は、出願に先立ち、申請が必要です。必ず教務課に問い合わせてください。

本学で申請内容について検討・調整を行いますが、すべてのご希望に沿えるとは限りませんので予め承知おきください。なお、障がいや疾病の状況、希望する配慮によっては、検討に時間がかかる場合がありますので、できるだけ早めに申請を行ってください。

保健学専攻・看護学専攻 博士後期課程（博士）

I 募集人員

保健学専攻：4名（社会人特別選抜を含む）
看護学専攻：1名（社会人特別選抜を含む）

II 選抜方法

1. 一般選抜
2. 社会人特別選抜

III 募集時期および入学時期

募集時期	2025年8月入試		2026年2月入試
募集区分	A	B	C
入学時期	2025年9月	2026年4月	2026年4月

IV 出願資格

【一般選抜による出願】

1. 修士の学位を有する者、あるいは修士の学位を本大学院入学までに取得見込みの者
2. 外国において修士の学位に相当する学位を授与された者、あるいは本大学院入学までに学位を取得見込みの者
3. 文部科学大臣の指定した者
 - ①学士の学位を有し、大学または研究所等において、2年以上研究に従事した者で、本大学院において当該研究の成果等により、上記1と同等以上の学力があると認めた者
 - ②外国において学校教育における16年の課程を修了した後、または外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより、当該外国の学校教育における16年の課程を修了した後、大学または研究所等において2年以上研究に従事した者で、本大学院において当該研究の成果等により、上記1と同等以上の学力があると認めた者
4. 本大学院が、上記1と同等以上の学力を有すると認めた者で本大学院入学までに24歳に達する者

【社会人特別選抜による出願】

1. 次の（1）（2）のいずれかに該当する者で、かつ一般選抜の出願資格1～4のいずれかを満たす者。ただし、出願資格の確認を行います。
 - （1）学校、研究所、官公庁、会社、非営利団体等に1年以上勤務し、かつ入学後も就業を継続する者
 - （2）その他本研究科が認めた者

V 出願手続き

1. 出願書類の請求および提出先

入学志願者は、入学願書等一式を本学ホームページよりダウンロードし、出願書類を取り揃え、教務係に提出してください。窓口直接持参の場合は、必ず封筒に入れること。封筒には、以下の宛先を記入し「出願書類 在中」と朱書きすること。不明な点は、教務係にお問い合わせください。

杏林大学大学院保健学研究科教務係（井の頭キャンパス）

〒181-8612 東京都三鷹市下連雀5-4-1 電話：0422-47-8000（代表）

※取扱時間：平日9:00～17:15、土曜日9:00～13:00（日曜日・祝日は取り扱いません）

2. 出願書類

【一般選抜による出願】

- | | |
|-------------------|---|
| (1) 入学願書・受験票 | 本大学院所定のもの |
| (2) 成績証明書 | 博士前期（修士）課程の成績証明書
（または、大学評価・学位授与機構による成績証明書） |
| (3) 修士課程修了証明書等 | 博士前期（修士）課程修了（見込）証明書（または、学位授与証明書） |
| (4) 修士論文 | 別刷または論文のコピー3部
（修了見込の場合は、研究内容をA4用紙1枚程度にまとめて提出してください） |
| (5) 研究計画書 | 本大学院所定のもの |
| (6) 旅券・査証の写し及び住民票 | 外国籍の方のみ提出してください。 |
| (7) 健康診断書 | 本大学院所定のもの。 |
| (8) 顔写真 | 3枚（縦3cm×横2.4cm、入学願書・受験票それぞれに貼り付ける） |
| (9) 返信用封筒 | 受験票送付用の定形封筒（長3サイズ 願書持参の場合は不要）
（封筒は郵便番号・住所・氏名を明記し、速達料金を含む郵便切手（各自確認）を貼付すること） |
| (10) 入学検定料 | 35,000円 |

注：本大学院所定の振込用紙を使用してください。願書をホームページより入手した方は、下記の振込口座に入学検定料を振り込んでください。振込証明書（またはATMによる振込票）は入学願書の貼り付け欄に貼付してください。

銀行名 三菱UFJ銀行西荻窪支店 口座名 普通預金 No.392198 杏林大学 保健学部

※ATMにて振込を行う場合は、左記の記載とは異なる口座名が表示されることがありますが、そのままお振込いただいて問題ありません。
 ガク) キョウリンガクエン キョウリン〜 等

【社会人特別選抜による出願】

○出願資格を確認するため、以下の書類を出願期間に先立って資格確認のための書類提出期間に提出してください。

- | | |
|--|---|
| (1) 出願資格確認願 | 本大学院所定のもの |
| (2) 履歴書 | 本大学院所定のもの |
| (3) 研究計画書 | 本大学院所定のもの |
| (4) 博士前期(修士)課程の成績証明書 | |
| (5) 博士前期(修士)課程修了証明書 | |
| (6) 在職・就業証明書 | 勤務先の発行するもの
（書類提出時点で、在職していることが分かる証明書。職員証のコピー等は不可） |
| (7) 修士論文 | 別刷または論文のコピー3部。
（修了見込の場合は、研究内容をA4用紙1枚程度にまとめて提出してください） |
| (8) 旅券・査証の写し及び住民票 | 外国籍の方のみ提出してください。 |
| (9) 返信用封筒 | 定形封筒（長3サイズ 出願資格の確認結果通知用）
（封筒は郵便番号・住所・氏名を明記し、速達分の切手を貼付すること） |
| ○出願資格の確認結果通知により、出願資格を有すると認定された者は、以下の書類を出願期間内に提出してください。 | |
| (10) 入学願書・受験票 | 本大学院所定のもの |
| (11) 健康診断書 | 本大学院所定のもの。もしくは勤務先で発行しているものでも可。
ただし、勤務先で発行しているものを提出する場合、出願前6か月以内に受診したもので、胸部X線の項目が入っている場合のみ可とする。 |
| (12) 顔写真 | 3枚（縦3cm×横2.4cm、入学願書・受験票にそれぞれ貼り付ける） |
| (13) 返信用封筒 | 受験票送付用の定形封筒（長3サイズ 願書持参の場合は不要）
（封筒は郵便番号・住所・氏名を明記し、速達料金を含む郵便切手（各自確認）を貼付すること） |
| (14) 入学検定料 | 35,000円 |

注：本大学院所定の振込用紙を使用して下さい。願書をホームページより入手した方は、下記の振込口座に入学検定料を振り込んでください。振込証明書（またはATMによる振込票）を入学願書の貼り付け欄に貼付してください。

銀行名 三菱UFJ銀行西荻窪支店
口座名 普通預金 №392198
杏林大学 保健学部

※ATMにて振込を行う場合は、左記の記載とは異なる口座名が表示されることがありますが、そのままお振込いただいて問題ありません。
ガク) キョウリンガクエン キョウリン～ 等

3. 出願上の注意

- (1) 募集区分A、B、Cを選択してください。
- (2) 指導教員の研究概要を参考に研究指導を希望する専門分野、指導教授をご確認ください。
- (3) 研究内容等について予め指導を希望する教授と十分相談してから願書を提出してください。
入学後の指導教授の変更は、原則としてできません。
一部の准教授は同一専門分野の教授とともに、または教授に依頼されて研究指導ができますが、単独での研究教育指導はできません。
- (4) 出願書類を郵送する場合は必ずレターパックライトまたは書留とし、締切日必着とします。
- (5) 出願書類に不備のあるものは、受け付けません。
- (6) 出願者には受験票を送付します。未着の場合、試験当日に申し出てください。
- (7) 受理された出願書類の返却、また、既納入学検定料は返還しません。

VI 出願・試験日・合格発表

1. 出願期間および試験日程

	2025年8月入試 (A. 2025年9月入学・B. 2026年4月入学)	2026年2月入試 (C. 2026年4月入学)
出願資格確認のための書類提出期間 ※	2025年6月20日(金)～ 6月27日(金) 必着	2025年12月9日(火)～ 12月16日(火) 必着
出願期間(一般、社会人とも)	2025年7月11日(金)～ 7月18日(金) 必着	2026年1月5日(月)～ 1月13日(火) 必着
試験日	2025年8月9日(土)	2026年2月7日(土)

※P.7 IV出願資格【一般選抜による出願】の1.に該当しない場合も、出願資格確認のための書類提出期間に必要な書類を提出してください。

※長期履修制度の利用についても、出願資格確認期間に書類の提出が必要になります。

2. 試験科目(2025年8月、2026年2月入試共通)

時 間	科 目
10:00～11:30	英 語
13:00～14:00	専 門 試 験
15:00～	面 接

3. 試験会場

杏林大学井の頭キャンパス

4. 選抜方法および諸注意

- (1) 選抜は、筆記試験、面接および健康診断書の結果によります。
- (2) 英語は辞書持込み可です。ただし、電子辞書および語学以外の辞書の持込みはできません。
- (3) 専門試験は、志望専門分野から出題されます。
- (4) 受験の際は、必ず受験票を携帯してください。

5. 合格発表

(1) 日時

2025年8月入試 (A. 2025年9月入学・B. 2026年4月入学)	2026年2月入試 (C. 2026年4月入学)
2025年 8月27日(水) 15時	2026年 2月25日(水) 15時

(2) 方法 杏林大学井の頭キャンパスC棟1階教務課、および三鷹キャンパス看護・医学教育研究棟1階の掲示板にて合格者の受験番号を公示します。

(3) 注意

①合格発表についての本学への電話等による問い合わせには一切応じません。

②合格者には、合格通知書及び入学手続書類を郵送します。

VII. 入学手続提出書類

1. 入学手続

(1) 期間

2025年8月入試 (A. 2025年9月入学・B. 2026年4月入学)	2026年2月入試 (C. 2026年4月入学)
2025年 8月28日(木)～ 9月4日(木) 17時15分	2026年 2月26日(木)～ 3月5日(木) 17時15分

(2) 取扱時間 平日 9:00～17:15

土曜日 9:00～13:00（日曜日・祝日は取り扱いません）

(3) 合格者は学生納付金とその他の納付金を納入（本学所定の振込用紙により銀行振込）し、所定の期日までに入学手続書類を提出して入学手続を完了してください。指定期間内に入学手続を完了しないときは、入学を許可しません。

2. 提出書類

(1) 誓約書 本大学院所定のもの

(2) 学納金等振込証明書(所定用紙に貼付)

(3) 顔写真 2枚(縦3cm×横2.4cm) 正面・上半身・脱帽、背景無地。

(裏面に必ず氏名、受験番号を記入し、専用封筒に入れること)

(4) 修了証明書

(博士前期(修士)課程修了見込みで受験した方のみ、入学後に修了証明書を提出してください。

提出については別途ご案内します)

(5) 返信用レターバックライト

(後日入学許可書を送付する際に使用いたします)

3. 学納金及び納入方法

	学 納 金(年額)		納 入 方 法
	保健学専攻	看護学専攻	
入 学 金	250,000円	250,000円	入学時のみ納入
授 業 料	500,000円	600,000円	各学期ごとに納入 (保健学:250,000円、 看護学:300,000円)
施 設 拡 充 設 備 費	200,000円	200,000円	各学期ごとに納入(100,000円) ただし、最初の2学期のみ
学生教育研究災害傷害保険料	2,650円	2,650円	入学時のみ納入 (3年分)
合 計	952,650円	1,052,650円	2年次以降は学期ごとに授業料のみ 納入

※1募集区分A, Cの合格者は入学金およびその他の納付金(授業料、施設拡充設備費他)は、入学手続期間に納入してください。

※2募集区分Bの合格者は、入学金のみを2025年 8月入試の入学手続期間に納入してください。

その他の納付金(授業料、施設拡充設備費他)は、2026年 2月入試の入学手続期間に納入してください。

※3 本学の学部卒業者が、博士後期課程に進学する場合は、入学金を免除します。

※4 本学の博士前期課程を、修了もしくは修了見込みで、博士後期課程に進学する場合は、入学金を免除します。

4. 注意

入学手続完了者で自己の都合により入学辞退を申し出、かつ既納付金の返還手続をした方に限り、次により取り扱います。

- (1) 募集区分Aの合格者については、2025年 9月12日（金）15時00分までに申し出た場合は既納付金のうち入学金を除いたものを返還しますが、上記指定日時以降の場合は、既納付金一切を返還しません。
- (2) 募集区分BまたはCの合格者については、2026年 3月27日（金）15時00分までに申し出た場合は既納付金のうち入学金を除いたものを返還しますが、上記指定日時以降の場合は、既納付金一切を返還しません。

VIII 修了要件及び取得学位

修了要件は、同課程に5年（前期課程を修了したものにあつては、当該課程における2年の在学期間を含む）以上在学し、前期課程の修得30単位を含め50単位以上を修得し、学位論文を提出してその審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、特に優れた研究業績を上げた者については、同課程に3年（前期課程を修了したものにあつては、当該課程における2年の在学期間を含む）以上在学すれば足りるものとします。

授与される学位は、保健学においては博士（保健学）、看護学においては博士（看護学）です。

IX その他の参考事項

1. 奨学金制度について

日本学生支援機構奨学金

学業成績、本人の経済的事情を審査の上、推薦します。

2. ティーチング・アシスタント制度

優秀な大学院生に対して、学生の実験、実習、演習等の教育的補助業務を行わせ、これに対して手当を支給するとともに、教育者としてのトレーニングの機会を提供します。ただし、社会人特別選抜で入学した場合には、この制度は適用されません。

3. 井の頭キャンパス内の禁煙について

杏林大学では、東京都の「受動喫煙防止条例」に基づき、学生、教職員及び近隣の方々への健康被害を防止するため、井の頭キャンパスでは構内全域で禁煙となっておりますので、構内での喫煙はできません。また、三鷹市は受動喫煙禁止区域に指定されています。キャンパス周辺の路上・公園等での喫煙は絶対にしないでください。本学は以下の事項について、積極的に取り組んでいきますので、入学生の皆さんのご理解とご協力をお願いします。

1. 禁煙活動キャンペーンの実施
2. 大学病院外来での禁煙サポート

4. 長期履修制度について

標準的な修学年次で修了が困難な者に限り、所定の在学年度の期間内で修年年限を延長し教育課程を履修することを認める制度です。概要はホームページ参照のこと。

本制度の希望者には、必要資料を送付いたしますので、出願資格確認のための書類提出期間前に必ず教務課に問い合わせてください。

事前に希望する指導教員に相談の上、出願資格確認のための書類提出期間中に長期履修制度の申請書を提出してください。なお、申出後は、学内審議を経て許可するか否かを決定します。

5. 受験上・修学上の配慮申請

本学では、疾病や負傷、障害等のある方が、受験上・修学上不利になることがないよう、合理的配慮を提供しています。配慮を必要とする場合は、出願に先立ち、申請が必要ですので必ず教務課に問い合わせてください。

本学で申請内容について検討・調整を行います。すべてのご希望に沿えるとは限りませんので予め承知おきください。なお、障がいや疾病の状況、希望する配慮によっては、検討に時間がかかる場合がありますので、できるだけ早めに申請を行ってください。

【保健学専攻指導教員の研究概要】

臨床検査・生命科学分野

職位	指導教員	研究概要	修士	博士
教授	石井 さなえ	1) 鼻炎に起因する脳と免疫系の相互作用 2) 鼻炎に誘導される鼻粘膜リンパ管新生 3) 鼻炎が鼻腔細菌叢、腸内細菌叢に及ぼす影響	○	○
教授	大河戸 光章	1) 子宮頸部上皮内腫瘍の進展予測に関する研究 2) 肛門管腫瘍におけるヒト乳頭腫ウイルスの検出の意義	○	○
教授	岡田 洋二	1) 活性酸素種捕捉能を有する天然由来抗酸化物の探索 2) 天然由来微量抗酸化活性脂質の抗酸化機構および速度論に関する研究 3) 天然由来抗酸化活性脂肪酸の動態調査	○	—
教授	島田 厚良	1) 脳と免疫系が細胞間相互作用する仕組みの解明 2) 全身性炎症に対する脳の免疫応答に関する研究	○	—
教授	滝 智彦	1) 各種腫瘍における多様なゲノム構造異常に関する研究 2) 新しい分子診断法および分子診断システムの開発 3) ゲノム医療における臨床遺伝学的諸問題についての研究	○	○
教授	山田 慎	1) 細胞内輸送における単一粒子解析	○	○
准教授	新江 賢	1) キチン粒子による気道炎症誘発機構に関する研究 2) キチン粒子によるアレルギー重症化機構に関する研究	○	○
准教授	蔵田 訓	1) マイコプラズマ肺炎の発症機構についての解析 2) 肺炎マイコプラズマ感染における肺外発症の宿主免疫応答についての研究	○	○
准教授	高津 博勝	1) 天然由来抗酸化物質の探索とその機能に関する研究	○	○
准教授	瀧上 周	1) 嗅球神経回路におけるシナプス可塑性に関する研究 2) 哺乳動物のフェロモン受容機構に関する研究 3) 鼻腔内メカノセンシング機構に関する研究	○	○
准教授	原島 敬一郎	1) 脈波解析による血管機能評価に関する研究 2) 超音波検査法を用いた生理的変動の解析に関する研究	○	○
准教授	水谷 奈津子	1) 難治性悪性腫瘍に対する新規(治療・診断)抗体の樹立研究 2) 既に報告された臨床検査に関係する医療事故例を検索し、現況調査・検証・対策に関する研究	○	○
准教授	八巻 明子	1) 低酸素適応に関する分子生物学的研究	○	○
准教授	堀口 幸太郎	1) 下垂体前葉の成体組織幹細胞に関する研究 2) 下垂体前葉の濾胞星状細胞の機能に関する研究 3) 乳腺上皮細胞を用いた人工乳作成に関する研究	○	○

※「—」 選択不可

救急救命学分野

職位	指導教員	研 究 概 要	修士	博士
教 授	玉 田 尚	1) ARDSにおける肺胞上皮細胞死機構の解明 2) 人工呼吸関連肺傷害における遠隔臓器障害発生機序の解明 3) 気管挿管デバイスの開発	○	○
教 授	樽 井 武 彦	1) 敗血症の急性期重症度評価に関する研究 2) 敗血症の多施設共同レジストリー研究 3) 急性薬物中毒に関する臨床的研究	○	○
教 授	松 岡 弘 芳	1) 腹部救急疾患の診断と治療 2) 腹部外科手術療法の変遷	○	○

保健学分野

職位	指導教員	研 究 概 要	修士	博士
教 授	亀 崎 路 子	1) 養護学の構築に向けての基礎的研究 2) 養護教諭の行う健康相談に関する研究 3) 子ども支援のための連携・協働や養護教諭のコーディネートに関する研究	○	—
教 授	下 島 裕 美	1) 自伝的記憶と自己 2) 時間的展望とキャリア発達	○	○
教 授	片 桐 朝 美	1) 高齢者の虐待防止に関する研究 2) 生活保護ケースワーカーの支援方法に関する研究	○	○
准 教 授	岡 本 博 照	1) 中高生の健康に関する縦断研究 2) 勤労者の健康とストレスに関する疫学研究 3) 教職員の健康に関する疫学研究 4) 医療系学生に対するへき地フィールドワークの教育効果	○	○
准 教 授	籠 谷 恵	1) 養護教諭の専門性とキャリア発達に関する研究 2) 学校看護学教育に関する研究 3) 子どもの健康と発達支援に関する研究	○	○

※「—」 選択不可

臨床工学分野

職位	指導教員	研究概要	修士	博士
教授	磯山 隆	1) 膜型人工肺 (ECMO) に関する研究 2) 循環モデル、シミュレーションに関する研究	○	—
教授	岸野 智則	1) 超音波検査による様々な生理現象の解析（浮腫、肩こり、昼寝など） 2) 腎動脈狭窄症の超音波診断における影響要因（食事、安静など） 3) 超音波検査を用いた生活習慣病の病勢把握	○	○
教授	中島 章夫	1) 電気メス用チェッカ・カプノメータ等学内実習教材開発に関する研究 2) 赤外線組織凝固装置（KIRC）の開発に関する研究（医学部心臓血管外科学との共同研究） 3) Er:YAGを用いた脳組織レーザ蒸散システムの開発に関する研究 4) 高気圧酸素治療時における耳痛軽減デバイス開発に関する研究 5) 院内放射電磁波強度の定量評価測定システム開発に関する研究 6) 内視鏡用硬性鏡汚損の点検方法に関する研究	○	○
教授	福長 一義	1) 次世代血液ポンプの開発に関する研究 2) 体外循環関連装置（ローラポンプ、膜型人工肺、バブルトラップなど）に関する研究 3) 血液粘性の計測に関する研究 4) 電気メスに関する研究 5) NIRSを用いたニューロフィードバックに関する研究	○	○
准教授	瀬野 晋一郎	1) 痛み、かゆみの定量的評価に関する研究 2) 電気刺激に対する知覚感度の変動要因に関する研究 3) 皮膚の蒸散（水分、発汗）の計測に関する研究	○	○

リハビリテーション科学分野

職位	指導教員	研究概要	修士	博士
教授	跡見 友章	1) 身体バランス制御に関する研究 2) ヒトの高次脳機能と身体性に関する研究	○	○
教授	池田 一磨	1) proof treeの構造とその簡約に関する研究	○	○
教授	石井 博之	1) 国際リハビリテーション事情に関する研究 2) 運動による健康寿命延伸効果に対する研究 3) 義肢・装具の効果判定に関する研究	○	○
教授	石毛 美代子	1) 発声発語の生理に関する研究 2) 発声発語障害に対するリハビリテーションに関する研究	○	—
教授	岩崎 也生子	1) 神経系の発達に関する研究 2) 子どもの高次脳機能障害の行動評価に関する研究 3) 脳卒中後うつ状態のリハビリテーションに関する研究	○	○

※「—」 選択不可

リハビリテーション科学分野

職位	指導教員	研究概要	修士	博士
教授	岩 楯 桜 子	1)腎代替療法の特性の比較検討に関する研究 2)腎代替療法における医療経済に関する研究	○	○
教授	木 村 雅 彦	1)呼吸理学療法の作用機序に関する研究 2)内部障害リハビリテーションの効果に関する研究 3)熱傷患者に対するリハビリテーションの効果に関する研究	○	○
教授	柴 田 茂 貴	1)運動と栄養科学（未病、予防医学） 2)一過性意識障害、認知症に関する臨床研究 3)環境医学、重力生理学に関する応用研究 4)システム生理学に関する基礎研究	○	○
教授	竹 田 里 江	1)前頭連合野に注目したリハビリテーションプログラムの開発及び効果検証に関する研究 2)ワーキングメモリの神経機構に関する研究 3)認知と情動の相互作用に関する研究	○	○
教授	丹 羽 正 利	1)運動に関わる中枢神経機構のメカニズムに関する研究 2)中枢神経障害後の回復過程に関する研究 3)姿勢制御に関わる体幹筋の中枢神経機構に関する研究	○	○
教授	橋 立 博 幸	1)高齢者または脳卒中片麻痺者における生活機能評価（機能・活動・参加）に関する研究 2)高齢者または脳卒中片麻痺者における生活機能障害に対する運動介入効果に関する研究 3)心身機能・活動における予備能に関する研究	○	○
教授	長 谷 川 利 夫	1)精神医療における隔離・身体拘束に関する研究 2)精神障害領域の作業療法に関する研究 3)医療と法の関係に関する研究 4)精神障害者の人権に関する研究 5)精神医療の政策に関する研究	○	○
教授	村 松 憲	1)糖尿病に起因する皮質脊髄路障害の病態生理に関する研究 2)糖尿病に起因する運動ニューロン障害の病態生理に関する研究 3)糖尿病に起因する運動系の障害に対するリハビリテーション開発に関する研究	○	○
教授	渡 辺 眞 澄	1)失語症患者や脳損傷例の言語障害、意味障害のメカニズムに関する研究 2)失語症患者や脳損傷例の言語生成/理解改善のための介入研究 3)基礎研究として、健常者の言語・意味処理に関する研究	○	○
教授	望 月 秀 樹	1)高齢者の介護予防における動機付け（行動変容）に関する研究 2)高齢者の心理的特性に関する研究 3)介護予防における集団の活用の有効性に関する研究 4)介護予防の効果に関する研究	○	○
准教授	石 井 由 起	1)失語症の障害構造を的確に把握するための評価法開発に関する研究 2)認知・コミュニケーション障害へのリハビリテーションに関する研究 3)健常児・者を対象とした言語機能のメカニズムに関する心理言語学的研究	○	○
准教授	一 場 友 実	1)COPDの呼吸機能に関する研究 2)COPD・難病患者の呼吸筋トレーニング効果に関する研究 3)障がい者スポーツボッチャに関する研究 4)障がい者スポーツ選手の強化・トレーニングに関する研究	○	○

リハビリテーション科学分野

職位	指導教員	研究概要	修士	博士
准教授	榎本 雪絵	1) 要介護高齢者に対する介護予防事業（運動器の機能向上事業）の有効性に関する研究 2) 高齢者のトレーニング能力に関する研究 3) 在宅生活を行う要介護高齢者のQOLに関する研究 4) 在宅生活における家族介護者の介護負担感に関する研究	○	○
准教授	烏山 亜紀	1) ハイリスク新生児の神経行動発達 2) ハイリスク新生児への早期介入とその効果検証 3) 重症心身障害児者の障害予防	○	○
准教授	早坂 友成	1) 精神疾患を持つ患者の行動特徴に関連した研究 2) 精神疾患を持つ患者の就労や復職に関連した研究 3) 精神疾患を持つ患者のリハビリテーションに関連した検証	○	○

診療放射線学分野

職位	指導教員	研究概要	修士	博士
教授	小池 貴久	1) 新しい技術を用いた放射線検出器の開発 2) X線装置の特性、性能の評価に関する研究 3) 診断領域X線の計測法と線量評価に関する研究	○	○
教授	俵 紀行	1) MRIの各種パラメータ計測における精度向上に関する研究 2) パルスシーケンスの開発も含めた撮像法の応用に関する研究 3) 様々な医療画像のスポーツ医科学および健康科学への応用に関する研究 4) MRIを用いた生体情報の定量化に関する研究	○	○
教授	戸成 綾子	1) 放射線治療における治療効果判定法（客観的画像評価）の研究 2) 放射線治療計画における標的体積設定の簡易化の研究 3) 悪性脳腫瘍の治療効果および血流評価の定量化の研究	○	○
教授	橋本 雄幸	1) Radon変換の逆問題の研究 2) CT・MRI・核医学に関する画像再構成の研究 3) 非破壊検査および放射線計測に関する研究	○	○
教授	山本 智朗	1) 核医学画像再構成理論、画像解析法に関する研究 2) 放射性医薬品の基礎特性に関する研究 3) 環境放射線計測および外部被ばく・内部被ばくに関する基礎的研究 4) 死後画像撮像の研究	○	—
准教授	関 健介	1) 量子化学的手法を用いたフラン脂肪酸とペルオキシラジカルとの反応性に関する基礎的研究 2) インドール化合物に関する放射線防護作用及び放射線緩和作用の量子化学的研究	○	○
准教授	三木 健太郎	1) 放射線治療、治療計画自動化のための研究 2) 深層学習を用いた自動領域抽出(コンツールリング)手法の研究開発 3) 放射線治療における粒子シミュレーションの研究	○	○

※「—」 選択不可

【看護学専攻指導教員の研究概要】

基礎看護科学分野

研究室	職位	指導教員	研 究 概 要	修士	博士
基礎看護学	教 授	金 子 多 喜 子	1) 看護師のメンタルヘルスと教育に関する研究 2) 看護師の感情と感情マネジメントに関する研究 3) 対人援助職の感情労働に関する研究	○	○
医 療 科 学	准 教 授	勝 又 木 綿 子	1) 産婦人科診療に関連する周産期医療に関する研究 2) 産婦人科診療に関連する生殖内分泌に関する研究	○	○

実践看護科学分野

研究室	職位	指導教員	研 究 概 要	修士	博士
精神看護学	教 授	浅 沼 奈 美	1) 精神障害者の地域リハビリテーションに関する研究 2) 地域職業リハビリテーションの促進要因に関する研究 3) 措置入院を繰り返す精神障害者の職業レディネスの形成 4) 神経症性障害者の当事者活動における日記指導に関する研究	○	○
高齢者看護学	教 授	岩 崎 孝 子	1) 要介護高齢者とその家族への支援に関する研究 2) 認知症高齢者とその家族への支援に関する研究 3) 高齢者への意思決定支援に関する研究	○	—
成人看護学	教 授	加 賀 谷 聡 子	1) 虚血性心疾患患者のリスク認識とセルフマネジメントに関する研究 2) 糖尿病を合併した虚血性心疾患患者に対する教育プログラムの開発 3) 心室性不整脈患者の心理的適応に関する研究 4) クリティカル領域における家族支援に関する研究	○	○
母性看護学	教 授	勝 又 里 織	1) 周産期を取り巻く課題と女性の意思決定支援に関する研究 2) 思春期の健康問題とその支援に関する研究 3) 女性の健康支援に関する研究	○	○
母性看護学	准 教 授	田 中 利 枝	1) 周産期における母子・家族支援に関する研究 2) ハイリスク母子への母乳育児支援に関する研究 3) 助産師教育に関する研究	○	○
在宅看護学	教 授	柴 崎 美 紀	1) 在宅医療における看護活動に関する研究 2) 在宅ケアシステム・在宅移行支援・退院調整に関する研究 3) 地域における栄養支援に関する研究	○	—
母子看護学	教 授	佐 々 木 裕 子	1) 出産前教育プログラム開発と効果に関する研究 2) 周産期メンタルヘルスと育児支援に関する研究 3) 多胎育児支援に関する研究	○	—
成人看護学	教 授	佐 藤 ユ キ 子	1) ”その人らしさ”のとらえ方に関する研究 2) 救命救急における患者・家族支援に関する研究 3) 看護師の暴言に関する研究	○	○
在宅看護学	教 授	田 原 美 香	1) 介護予防を意図した在宅看護に関する研究	○	—
母子看護学	教 授	藤 田 千 春	1) 発達障害児とその家族への支援に関する研究 2) 子育て支援に関わる職種に対する継続教育プログラムの開発 3) 地域に暮らす子どもとその保護者に対する保健活動に関する研究	○	○
小児看護学	教 授	米 山 雅 子	1) 子どもの権利擁護に関する研究 2) 子どもの療養環境に関する研究 3) 小児看護に携わる看護師への支援に関する研究	○	○
成人看護学	准 教 授	伊 藤 有 美	1) クリティカルケア領域における患者・家族看護に関する研究 2) 人工呼吸管理中の重症患者の鎮痛・鎮静に関する研究 3) 人工呼吸管理中の重症患者に対する看護ケアに関する研究	○	○
精神看護学	准 教 授	佐 藤 美 保	1) 精神疾患患者-看護師の関わりやそのプロセスに関する研究 2) 精神障害者の「語り」に関する研究 3) ロールプレイを活用した精神看護学教育に関する研究 4) ひきこもり支援に関する研究	○	○

※「—」 選択不可